

2025 年 12 月期 決算説明会 Q&A

日時：2026 年 2 月 19 日（木）10:00-11:30

No	項目	Q	A
1	全体	2026 年の営業利益計画は保守的にみているのか？また、上振れの可能性はあるのか。	2026 年計画は一定の自努力が必要な計画となっており、達成に向けたアクションプランの完遂が求められる。一方、上振れ要因としては、CMP の受注状況の更なる改善、TRS における MRO 比率の上昇等が挙げられる。ACB については海外 PD 案件からの撤退影響で増収を期待できるフェーズではないが、海外案件を主体とした MRO 強化及び早期刈取りを目指す。
2	中期経営計画	油圧機器事業売却に伴い、中期経営計画のアップデートはあるのか。	詳細な数値は提示できないが、次期中期計画に向けて利益構造転換（CMP の収益性改善）を図ることで 4 セグメントの利益バランスを立て直し、2027 年中には進捗状況を示せる状態を目指す。 なお、中期経営計画策定時には 2027 年油圧機器での売上 500 億円、営業利益 25 億円でみていた。全社として進捗のよい TRS 等の貢献でバランスを取っていききたい。
3	キャッシュアロケーション	P27 のキャッシュアロケーションに出てくる 2027 年予算の 158 億円の用途について教えてほしい。	基本的には 2027 年予算の一部分であるという認識ではあるが、成長に資する案件があれば研究開発・設備投資に優先的に使っていきたい。一方で、適切な投資先がない場合は機動的な株主還元も考慮したい。
4	M&A	Deep Sea 社におけるのれん減損を受け、M&A における効率性や選定プロセス等についての考え方を教えてほしい。今後、他案件で M&A を行う場合、投資リターン基準の厳格化、緻密な収益計画の立案などの対策は考えているのか。	社内規定（M&A 実施規定）に基づいて M&A のプロセスを実行しているが、不足している部分が多いと感じている。今後の課題として認識し、引き続き体制強化に取り組んでいく。
5	M&A	デューデリジェンスに対する疑問が残っているが、DeepSea 社・Gilgen 社以外で今後ののれん減損のリスクはあるのか。	現在設定している計画を遵守することにより、のれん減損のリスクは回避できると考えている。

6	株主還元	ROE が低い水準で推移していることが課題だと認識している。ROE を上げるために、中期経営計画で示しているDOE の目標にとらわれず株主還元方針を変更しないのか。	ROE の改善も課題だが、ROE 改善のためにはまず分子である利益を改善することが重要と認識し、収益性の改善を最優先事項とした計画をたてている。加えて、資本効率の改善も必要であり、財務状況等を鑑みつつ、中期経営計画での株主還元方針を検討していきたい。
7	精密減速機	浜松工場では現在 1 ラインしか稼働していないが、さらなる設備投資の必要はあるのか。	中期経営期間中の能力増強は考えていないが、今後の需要見合いで設備投資を行うこともある。
8	精密減速機	2025/Q4 の受注が強かった背景を教えてほしい	中国や韓国、一部北米での設備投資需要が堅調であったことによるものと推測している。
9	精密減速機	2025 年 4Q まで受注高・売上高ともに好調であった一方で 2026 年上期の売上高計画では伸びが緩やかである。2026 年の需要環境の見方について教えてほしい。	2025 年 12 月には想定以上に受注が増加した一方、2026 年 1Q の春節影響があり季節的な要因で需要低下が想定されているが、2025 年 4Q 以降の需要好調トレンド自体に変化は生じていない。
10	精密減速機	一般産業市場の開拓の動きに関して、遅れがみられている。2025 年の実績及び 2026 年以降の方針を教えてほしい。半導体製造装置等で苦戦しているのは価格なのか？	2025 年に関しては、開発が順調に進み顧客試験にまでは進めたが受注にまで繋がらない案件が多かった。2026 年には改善の兆しが見えている。 一般産業向けではポジショナーの売上比率が高く、自動車業界の設備投資動向に紐づくことがある。それ以外の案件で開拓を進め量産移行を待っているものもある。 価格については十分な競争力があると考えている。
11	精密減速機	2026 年計画中にフィジカル AI による需要増加はみられるのか？中長期的に貢献するものなのか？	現在顧客側で試験を進めており、本格的な売上貢献としては 2027 年を見込んでいる。
12	精密減速機	小型減速機市場に参入する上でどのような競争優位性があるのか教えてほしい。	優位性は大きく 2 点ある。 一つ目には 10kg~20kg で基軸は当社、手首軸は他社であったものを当社が 6 軸セット売りにすることで、ロボットメーカーの要望に沿う柔軟なカスタマイズが可能である点。 二つ目には、精密減速機 RV で培った大量生産可能な高い生産技術能力。

13	TRS	OVALO の赤字拡大の要因と、今後赤字改善の見通しがあるのかを教えてください。	自動車メーカー向けのアクティブサスペンションの需要減少に伴う在庫評価減が発生したことが主要因であるが、2026 年の量産終了に伴って赤字幅の減少を見込んでいる。波動歯車減速機付きアクチュエーターの拡販を進める中で、欧州のコボットメーカーや一般産業向けで引き合いを頂いてはいるが、量産待ち案件含め開拓を行うことで収益を確保していく。
14	ACB	海外 PD 案件「撤退」と「選別受注」は何が異なるのか。	海外設置工事を含む案件からは事実上撤退しているが、MRO での対応、また工事を含まない機器売りでは引き続き対応していく予定であり、このような表記となった。